

あいさつは、互いの存在を認め合う作業

最近、七中生のあいさつの声が、響くようになってきました。

遠くから大きな声であいさつをする生徒、立ち止まってお辞儀をする生徒、大きな声は出さなくともニコッと笑って会釈をする生徒。あいさつの仕方は生徒それぞれですが、生徒たちとあいさつを交わすと、とてもさわやかな気持ちになります。ではなぜ、あいさつを交わすと「さわやかな気持ち」になるのでしょうか。

それは、あいさつが「相手の存在を認める行為」であるからだと思います。人は、あいさつをされることで、「自分が大切にされている」という気持ちになります。あいさつを交わした分だけ自分という存在がいろんな人に認められたような気がして、所属の中で過ごす安心感につながります。ですから、あいさつをしても、無視されたり、目をそらしたままであいさつをされると、自分という存在を認めてもらえていないような気がして、さみしい気持ちになります。

あいさつをする上で大切なのは、いかにして相手に思いを伝えるかです。お辞儀や会釈をしたり、大きな声を出したり、笑顔で接したり、手を振ったりと、「相手が誰であるか」「どのような場面か」等に応じて、人は、その場その場にふさわしい方法であいさつを交わします。あいさつは経験で身につきます。身につけるにはトレーニングが必要です。いわば躰です。



七中生には、毎日の生活の中で、あいさつをする機会を大切に、あいさつの経験値を高めてほしいと思います。そして将来、実社会で多くの人に愛情を持って受け入れられる人材になってくれることを願っています。

生徒たちのさわやかなあいさつと、校舎に一礼して門をくぐる美しい姿から元気をもらい、「今日も頑張ろう！」と決意を新たに毎日に感謝です。

自ら考え、学校生活を豊かにする七中生



七中では、「生徒たち一人一人に活躍の場を！」を合い言葉に、生徒の自主性を尊重する取り組みを進めています。その中心になるのが、生徒会活動です。本校では、生徒会執行部を中心に八つの委員会が学校生活をよくするために日々活動を頑張ってくれています。

先日は、各専門委員会の年間の活動を審議する「生徒総会」が開かれました。執行部のよく練り上げられた段取りのもと、議事ごとに各学級から様々な質問や意見が出され、大変充実した総会となりました。これを受けて早速、体育委員会主催の「リレーカーニバル」（学年の枠を超えて縦割り班を編制し、体育で学習したりレーの技術を競い合うイベント）や「美化コンクール」（本校が取り組んでいる無言清掃の実施状況を競うイベント）が実施されました。どれも、生徒たちが、学校をよくするための取組として考えてくれたものです。生徒たちの発想と実行力で七中はどんどん活性化しています！

